



# CAGLIERO 11

カリエロ



186 2024年 6月

## サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



### 愛する皆さん、

このご挨拶の言葉を通して、サレジオ会のミッションに注目したいと思います。近年、実践面でも、また神学的省察においても、さまざまな変化をとげてきた概念です。世界のキリスト教そのものと同じく、サレジオのミッションも多文化的になり、ますます多様な分野に携わり、さまざまなバックグラウンドをもつ多くの宣教師が派遣されています。サレジオ会の最初の宣教派遣から149年たった今日、人間の全人的救いと、共に暮らす家のために、さまざまな側面をもつ人類の新たな地平へと出向いて行くよう、私たちは挑戦を投げかけられています。このすべては、率先して行動し、関わり、共に歩み、実を結び、祝うことを、宣教師だけでなく、皆に求めます。おびただしい人々が移住や避難を余儀なくされる世界で、移住が、ある国から別の国へ移るだけでなく、ある状況から別の状況へ、あるいはある社会から別の社会へ移るものであるとき、受けた任務の基本的な次元を保ちながら、サレジオのミッションのキーワードとなるのは、「福音を宣べ伝えること」、「教育」、「あかし」、「預言的歓待」です。最後の「預言的歓待」は、私たちのアイデンティティーを明確にし、よそ者というイメージを取り壊し、開かれた多文化間対話を育むミッションのあり方を目指すよう促します。

*Samuel Amaglo*

■ ローマ 教皇庁立サレジオ大学  
宣教論講師  
サムエル・アマグロ神父, SDB

## ボランティア活動： 神のために何か意味深いことを



ここ数十年の間に、ボランティア活動の現象は、かなりの発展をとげました。しかし、ボランティア活動とは、実際、何なのでしょう？ 何よりも忘れないことが大切なのは、それもボランティア活動だと言える日常的な活動を、あらゆる年齢の人が行っていることです。例えば、ホームレス支援センターで奉仕する、スポーツ・チームを指導する、美術館・博物館でガイドを務める、地域の清掃活動に参加するなどです。

その本質そのものによって、ボランティア活動は、個人やグループを助け支えるために、博愛の精神から、あるいは宗教的動機や、個人的な理由から進んで差し出す無償の奉仕です。もちろん、ボランティア活動によって世界が変わることはありません。しかし、ボランティア活動は、無償の奉仕を通して貢献する機会を一人ひとりに与えてくれます。したがって、ボランティアは、世界を建設的に変化させるために重要な役割を果たすのです。ボランティア活動には代償も伴います。ボランティアは自分の時間や能力、時には個人の資金さえ差し出します。ふだんの生活が中断される、要求の高い奉仕なのです。

キリスト教信仰に触発されたボランティア活動は、自由に進んで世に入られることを通じてイエス・キリストのうちにご自身を明かされた神の似姿に、人間はかたどられている、またそのことから、神と人間、人間同士の関係の原則は愛である、という確信に根ざします。ボランティア活動は、仕えるようにという福音の呼びかけを生き抜く機会を、緊急事態の際だけでなく日常生活の中でも、宣教する弟子たち一人ひとりに提供します。それは、カトリック教会の社会教説の原則の一つである連帯を、具体的に生きる方法です。

ドン・ボスコは、ヴァルドッコのオラトリオの少年たちの間で、さまざまな形のボランティア活動を進めました。最も印象的な例は、1854年の8月1日から11月21日にかけて、トリノをコレラが襲った際の活動です。1400人が疫病によって命を落としました。しかし、コレラ患者の世話をするためにドン・ボスコが送り出した少年たちは、誰一人感染しませんでした。今日、この模範は**サレジオ宣教ボランティアSMV**を通して継承されています。若者(17 - 35歳)が、報酬を受け取らずに連帯の奉仕として、信仰に触発され、遣わされ、派遣先の共同体に受け入れられ、宣教的なスタイルで、ドン・ボスコの教育と霊性に生かされて活動します。若者を招きましよう、サレジオ宣教ボランティアを通して、神のために何か意味深いことを行おう、と!

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

### 振り返りと分かち合いのために

- 自分は進んで周りの人に仕えているだろうか？
- サレジオ宣教ボランティアについて何を知っているだろうか？



Cagliari 11 (カリエロ11)の全バックナンバー : <http://salesians.jp/library/cariero>

# パラベクで人々の生活を再建する サレジオ会の働き



アマトゥス神父様、教皇フランシスコによる今月の祈りの意向は、移住者のためです。神父様はパラベクの難民キャンプで働いています。そちらの移民、難民の方々の実情を教えてくださいませんか？

パラベクの難民居住地は、出入りの激しいところです。故国を出る理由はさまざまあります。飢饉のため、食べ物のある場所を求めて移動する人たちもいれば、死と家畜の奪い合いに至る部族・氏族間の対立や抗争を逃れて来る人たちもいます。今年、復活祭の前に、ヌエル族の内部抗争があり、多くの人が亡くなり、何軒かの家が焼き討ちされました。今、状況は落ち着いています。難民の多くは十代の若者や子どもたちです。学校(小学校、幼稚園)では、300人以上の生徒が一つの教室で学んでいます。小学校を卒業した多くの子どもたちは中等教育に進むことがありません。居住地全体に中等学校が一枚しかなく、たくさんの小学校を卒業した生徒全員を受け入れる収容能力がないからです。多くの子どもが学校をやめてしまい、家にいますが、少数の子たちはドン・ボスコ技術系職業教育訓練校 TVET に入ります。学校をやめてしまう子どもの割合が高い結果、居住地では十代で妊娠するケースが高い割合であります。仕事もない青少年少女たちには、霊的な世話と物的支援の両方が必要です。

## 難民のためのサレジオ会固有の働きは何だと思いませんか？

私たちサレジオ会の取り組みは、大きな価値があります。特に、若者の人生を再建する私たちのやり方です。人生への希望を培うよう若者たちを助けるため、また、人生の挑戦に立ち向かう力をつける、さまざまな職業技術の習得を助けるため、私たちは力を尽くしています。私たちは多くの問題に直面しています。スペースが限られていて生徒全員を収容できないことや、必要な授業料を払う経済力が生徒たちにないため寄付金に大きく頼っていることなどです。生徒たちは基本的に、実際に可能な場合、労働作業を提供する形で学校に貢献します。

## 家を後にし、未知の世界へ歩み出したこの人々によって、私たちはどのように豊かにされるとおもいますか？

この神の息子、娘たちが楽観的な心と喜びを保ってきたことによって、私たちは豊かにされます。この人々の勇気と、ドン・ボスコのサレジオ会員といるとき人々がわが家にいるように感じている様子は、彼らの中で働く私たちの励みになります。私たちはカテケージスを通して人々の霊的生活の世話をしています(改宗者の数は増えています)。ミサや秘跡は、侍者会、聖歌隊など、生徒たちのさまざまなグループによって運営されています。



アマトゥス・マニラバルタ神父, SDB

ブルンジのギテガ大司教区出身。ブジュンブラ大学でマーケティングと経営学の学士号を取得。

2011年、サレジオ会入会、2014年8月16日、初誓願宣立。カブガイイ(ルワンダ)で哲学課程を修めた後、ウトゥメ(ケニア、ナイロビ)で神学課程を修める。

2023年6月17日に司祭に叙階された後、パラベクの青少年司牧担当、ドン・ボスコ TVET の校長に任命され、現在に至る。



## 暮らす土地を余儀なく後にした世界の人々

出典: [www.unhcr.org](http://www.unhcr.org) より

- ・ 迫害、紛争、暴力、人権侵害などによって暮らす土地を後にしなればならなかった人々は、世界で1億840万人：難民3,530万人、国内避難民6,250万人、亡命申請者540万人、その他、国際社会の保護を必要とする人々520万人。
- ・ この全難民・避難民の約52%が、たった3か国：シリア、ウクライナ、アフガニスタンから出ている。



## 6月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

祖国から逃れなければならない人々のために  
ウガンダのサレジオ会事業に受け入れられた難民と、  
その世話をする人々のために。



戦争、飢餓から逃れる移住者のため、危険と暴力にさらされる旅をせざるを得ない人々のために祈ります。受け入れられた国で温かく迎えられ、人生の新たな機会を見いだすことができますように。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |